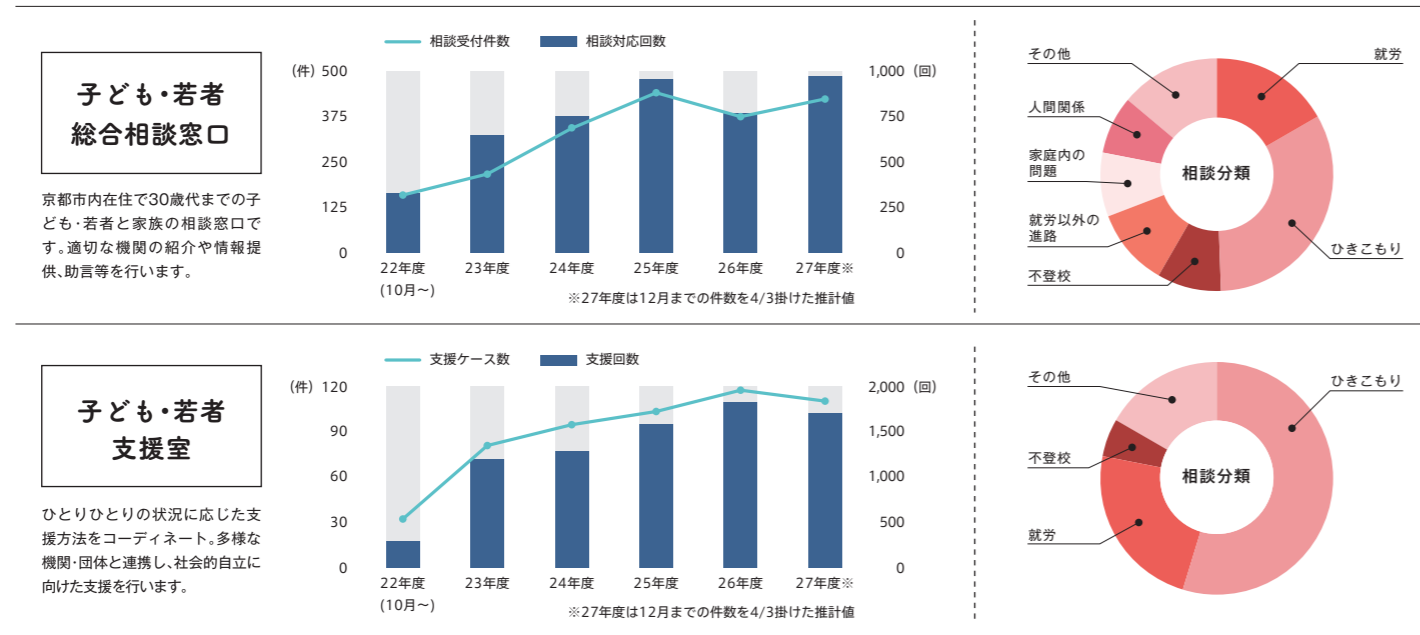


# 京都市ユースサービス協会が「子ども・若者支援事業」に取り組み、5年が経ちました。

相談に来られるご本人やご家族は多様な困難に直面されています。総合相談窓口と支援室では若者の思いに寄り添うことを心掛け、適切な支援機関の紹介や助言、継続的な支援を行っています。また、関係機関と連携しながら、サポート体制の充実を図っています。



主な紹介先、連携先：地域若者サポートステーション、青少年活動センター、保健センター、民間支援団体(NPO法人等)、教育関係機関、福祉関係機関など

## 京都市ユースサービス協会における子ども・若者支援事業の取り組み

平成22年	4月	「子ども・若者育成支援推進法」に基づく、取り組みのため支援機関準備室を設置	
	10月	京都市が子ども・若者総合相談窓口を中京青少年活動センター内に設置 京都市が子ども・若者支援地域協議会を設置。当協会が指定支援機関として指定される 指定支援機関業務に取り組むための子ども・若者支援室を開設	
平成23年	10月	NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業開始	
平成25年	4月	ホームページからの来所相談受付を開始	
	9月	ピアサポーター養成・派遣事業開始(～27年度 延べ24名養成講座修了)	
	10月	子ども・若者総合相談窓口と子ども・若者支援室の機能を併せて「ひきこもり地域支援センター」として位置づけ	
	12月	講演会・NPO等民間団体との交流会開催(～27年度 延べ575名参加)	
平成27年	1月	相談機関、支援団体情報をまとめたサポートブックを発行	
	8月	ピアサポーター事業 ミニグループ活動「モノタメ」開始	

▲ 27年度講演会・NPO等民間団体との交流会 ▲ サポートブック

## Aさんの場合 支援モデル

### STEP1 電話相談から来所予約

30歳Aさん。高校卒業後に就職し、半年で辞めてから10年近く自宅でひきこもり。母親が困り果て、相談窓口で電話をしました。

### STEP2 相談窓口から支援室

相談窓口では継続的な寄り添い支援が必要と判断し、支援室の支援コーディネーターに引き継ぎました。母親の働きかけで来所したAさん。支援コーディネーターとの面談を継続します。

### STEP3 NPOや青少年活動センターのプログラム参加

「人間関係が不安」と話すAさん。徐々に慣れるためにグループの活動に参加しました。

### STEP4 就労体験に参加

人間関係の不安が軽減されたAさん。就労に前向きになり、就労体験に参加しました。

### STEP5 就労支援機関の利用

Aさんは就労支援機関を利用しながら就労に向けて動き始めます。

### STEP6 進路決定 見守り支援から卒業

ハローワークでの紹介を経て、清掃の仕事に見事合格。しばらくは支援コーディネーターと相談を続けました。次第に前向きにしっかりと働くようになり、支援から卒業しました。

## 参加者コメント

- 最初は躊躇しましたが、徐々に安心感を持ってました。また、役割を担うことで達成感や自信が少し持て、グループの作業は仕事にも繋がると感じました。(Cさん)
- 人と接することに不安がありましたが、活動に参加することで徐々に慣れていくことができました。(Sさん)
- なかなか前に進めなくて就労体験に参加。最初はしんどかったけど、今では自分が役に立っていることを実感できて、体験後も仕事を続けています。(Mさん)
- 相談で痛みや苦しみを理解し、受け止めてもらえたことで救われました。別の見方、考え方もあると気付けたことで世界が開けました。(Nさん)
- 相談するにつれ自分が緩んでいくのを実感。その様子を見て子どもも徐々に緩んだのかなと思います。今では働きはじめた娘と雑談もでき、嬉しく思います。(保護者Hさん)

## 連携する機関・団体からのコメント

パンやお菓子作り、細作業など。最初は緊張いっぱい参加者も、回を重ねるうちにARUのメンバーとの会話が弾み、笑顔が見られるようになりました。協力して作業を進める中でお互いを知り、連帯感が生まれるのだと感じています。



学習支援、居場所提供、レクリエーション活動を主に実施し、スタッフの一部は子ども・若者支援室ピアサポーターとしても活動しています。当所に通うにつれ、笑顔が増えていきます。この活動を通じ、社会に出ていくための勇気と自信を培うことで、社会への一歩になると考えます。



大事にしていることは「いっしょに過ごす」こと。ゆっくり過ごす中で、表情が豊かになったり自分から発言をしたり少しずつ変化が見られます。小さな「楽しい」を積み重ねる場、それが次のステップへの自信につながるようです。



支援室からサポステに来る人の多くは過去の失敗から働く自信がなくなっています。サポステの就労体験プログラムでは「できたこと」を積み上げます。そこで、自信が次のステップに繋がるきっかけになっています。



## おわりに

当協会が従来から取り組んできた「ユースワーク」と新たに始まった「子ども・若者支援」の関連を考えた5年間でした。ここでの相談・支援の多くはソーシャルワーク的な関わりです。しかし、支援過程の中で集団等での体験から若者自身が気づき、学びを得て成長するユースワークに繋がる内容が必要なことも多く、積み重ねてきた経験をもとに先に進む若者の姿がありました。若者が自分なりに社会と繋がりを生きていけるよう、今後も両面からの関わりを意識して取り組んでいきたいと考えています。

支援事業統括 藪田博司

# 子ども・若者 支援事業 5年レポート

公益財団法人 京都市ユースサービス協会  
＜子ども・若者総合相談窓口 / 子ども・若者支援室＞

〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262  
京都市中京青少年活動センター内

TEL : 075-708-5440 (相談専用) / 075-708-5430  
FAX : 075-231-1231

<http://ys-kyoto.org/sodan/>

ACCESS 地下鉄「四条駅」「烏丸御池駅」から徒歩5分  
阪急京都線「烏丸駅」から徒歩5分

